

2026年9月3日

PILLAR 株式会社 **PILLAR**

個人投資家様向け会社説明会

東証PRM
6490

01 PILLARってどんな会社？

02 業績推移・業績予測・中期経営計画

03 株主還元

01

PILLAR ってどんな会社？

2024年、創業100周年を機に社名およびロゴを刷新



株式会社 **PILLAR**

創業100年のその先へ

初の5か年計画を羅針盤に、企業価値の更なる飛躍を目指す



社名の由来

船舶の蒸気機関からの漏れを防ぐシール製品として、創業時に開発した「ピラーパッキンNo.1」の形状が、柱状（=P I L L A R）であったことから日本ピラー工業（現：株式会社PILLAR）と命名されました。

創業	1924年（大正13年）
代表者	取締役社長 岩波嘉信
株式	東証プライム（証券コード:6490）
資本金	49億66百万円
事業内容	流体制御関連機器製品の製造販売
従業員数	1,308名（連結:2026年3月末現在）
売上高	594億79百万円（連結:2026年3月期）

パーパス

“社会を支える”未来を創る

C L E A N	エネルギーを最小限に ベネフィットを最大限に
S A F E T Y	何よりも安全を いつでも安心を
F R O N T I E R	常に最先端へ もっと新分野へ

社 是

品	質	第	一
和	衷	協	力
一	歩	研	究

会社概要の動画

【当社WEBサイト】
動画で見る
PILLAR



PILLAR
CLEAN SAFETY FRONTIER



動画再生：PILLAR会社概要（4分間）

沿革

【当社WEBサイト】
沿革



PILLAR
CLEAN SAFETY FRONTIER

企業の歴史

1924

「日本ピラー工業所」設立



創業者
岩波嘉重

1948

株式会社に改組し、
「日本ピラー工業株式会社」を設立

1967

三田工場竣工



2001

東証一部上場

2020

新・三田工場竣工



2023

福知山第二工場竣工



1989

福知山工場竣工



2004

九州工場竣工



三田イノベーションセンター竣工



1920

1940

1980

2000

2020

1926

工業用パッキンの
本格的生産開始



1951

日本で初のメカニカルシー
ルを開発・生産開始



1932

自動車・船舶用の
ガスケット生産開始



1984

半導体製造装置向け
ふっ素樹脂継手を発売



2002

画期的なシール機構を
実現した継手を開発・発売



2012

半導体向けロータリー
ジョイントの生産開始



2021

次世代の高性能新型
継手を開発・発売



製品の歴史

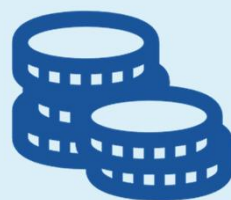
数字で見るPILLAR（2026年3月期）

連結売上高



594億円

連結営業利益



121億円

連結営業利益率



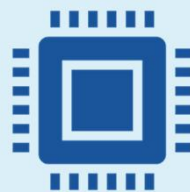
20.4%

創業



102年

継手の世界シェア



世界**No.1**
(半導体洗浄装置向け)

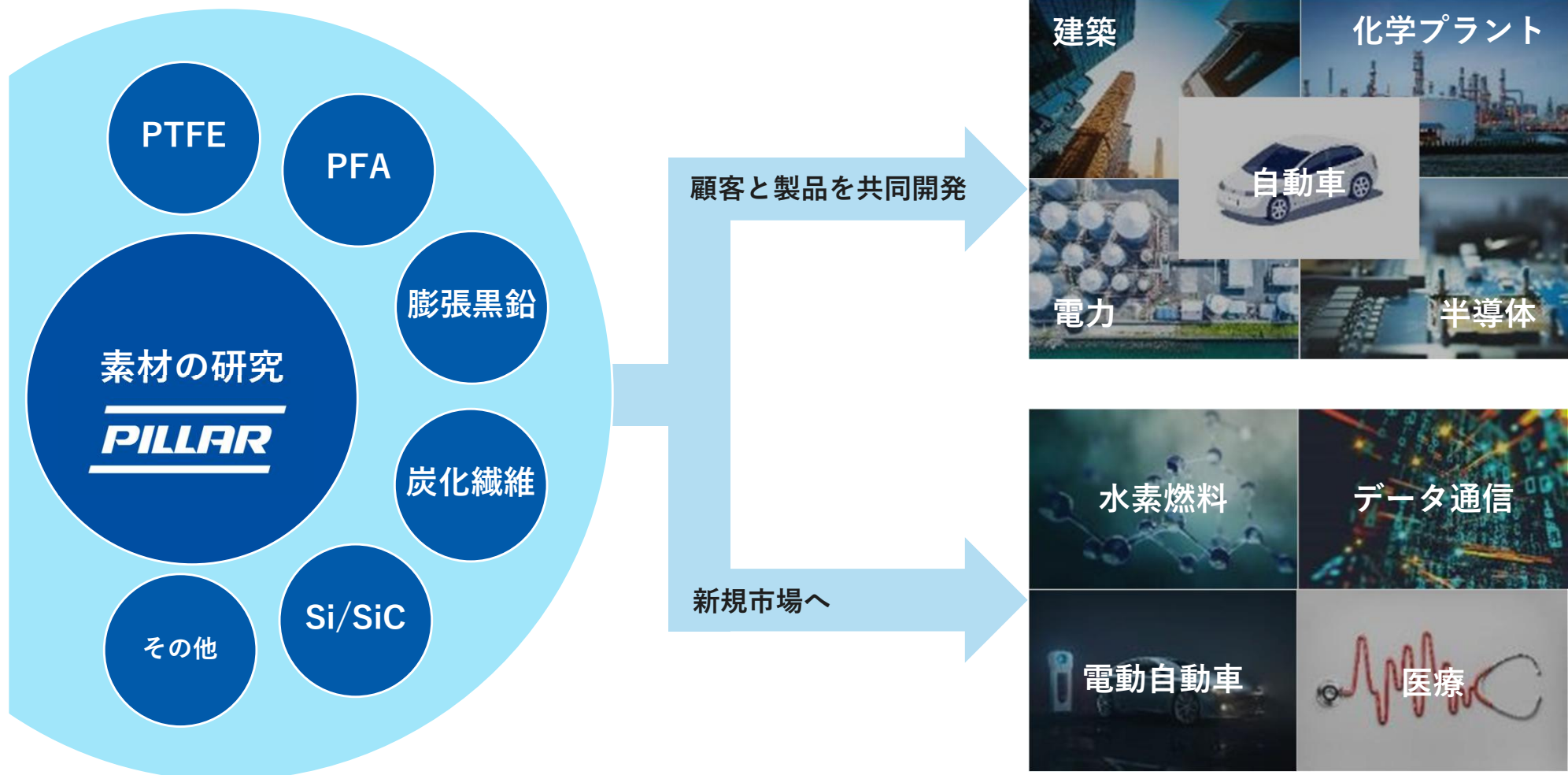
自己資本比率



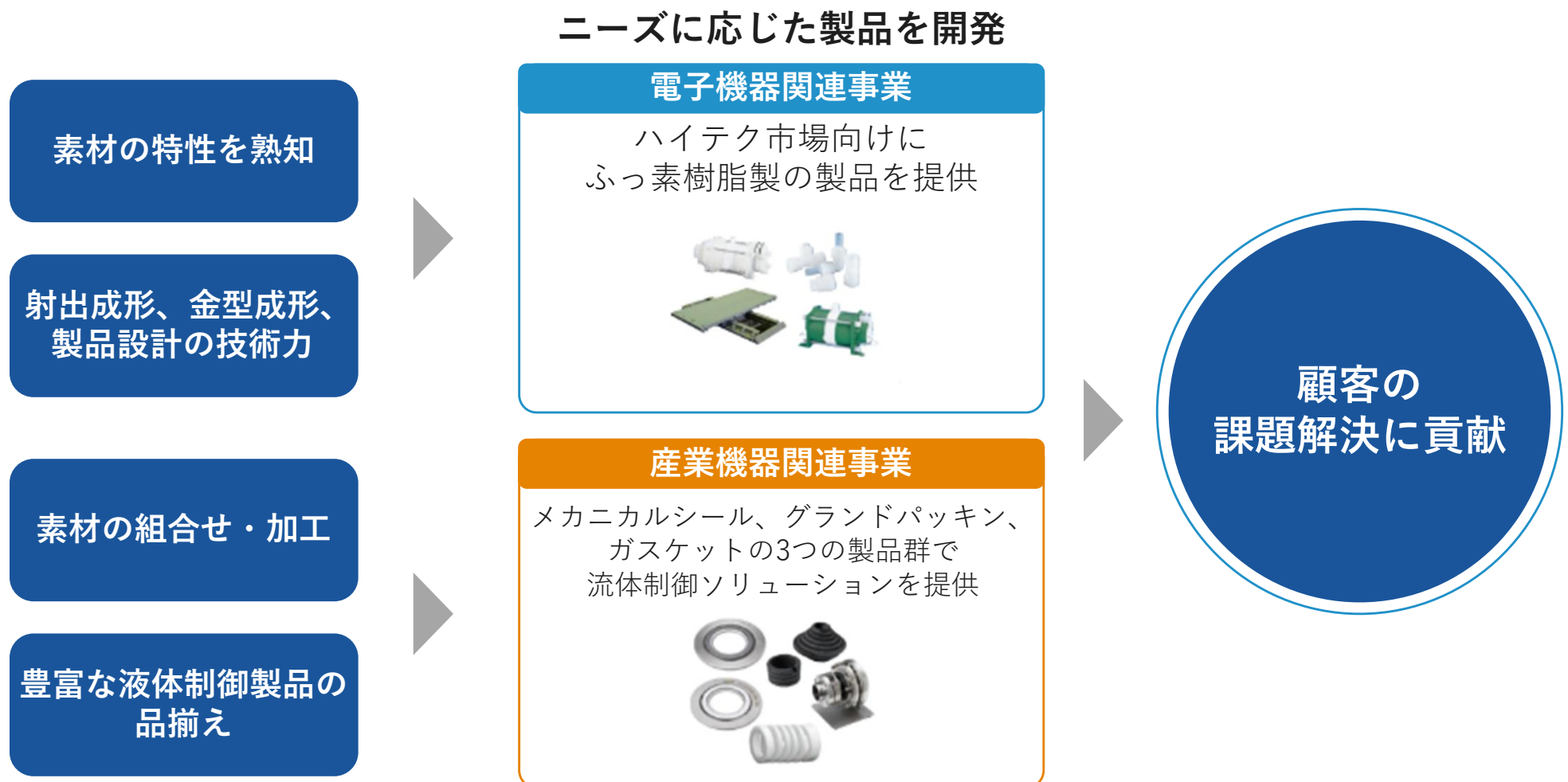
75.2%

当社の強み① 100年磨いた素材開発力

- 100年にわたり液体・気体、高温・低温など様々な用途に合わせた素材を独自で研究・開発
- 素材の特性を知り尽くしているからこそ、様々なソリューションであらゆる顧客・市場に応え得る裾野の広さ
- 培った素材開発力を基にEV・水素・次世代通信（5G/6G）など新たな市場へ展開

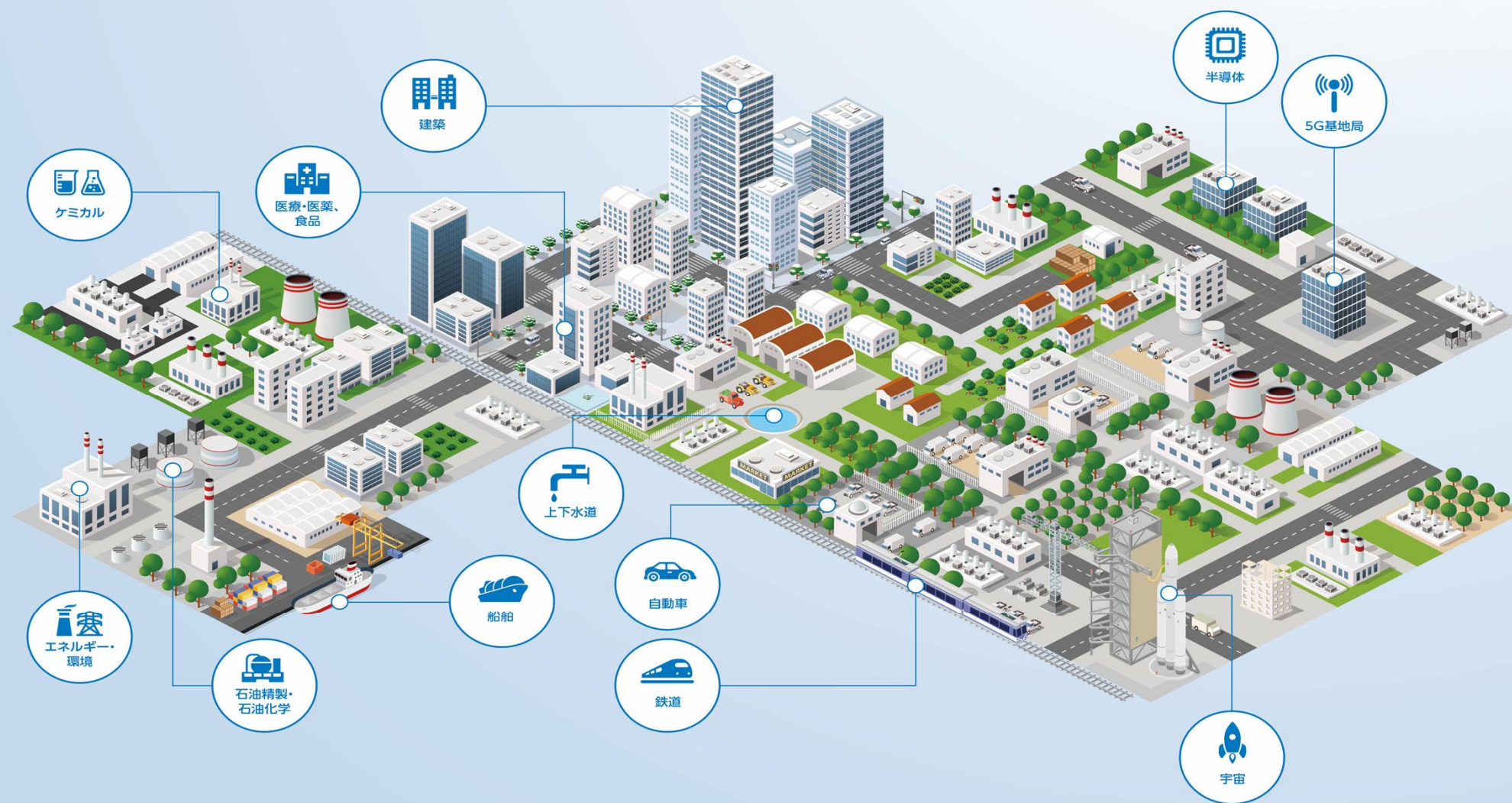


- 電子機器関連事業では素材の特性を熟知し、技術力の向上により切削加工が一般的な製品形状でも射出成形化を実現
- 産業機器関連事業では3つのシーリング製品群で顧客ごとに流体ソリューションを提供し、顧客の課題を共に解決



当社の市場領域

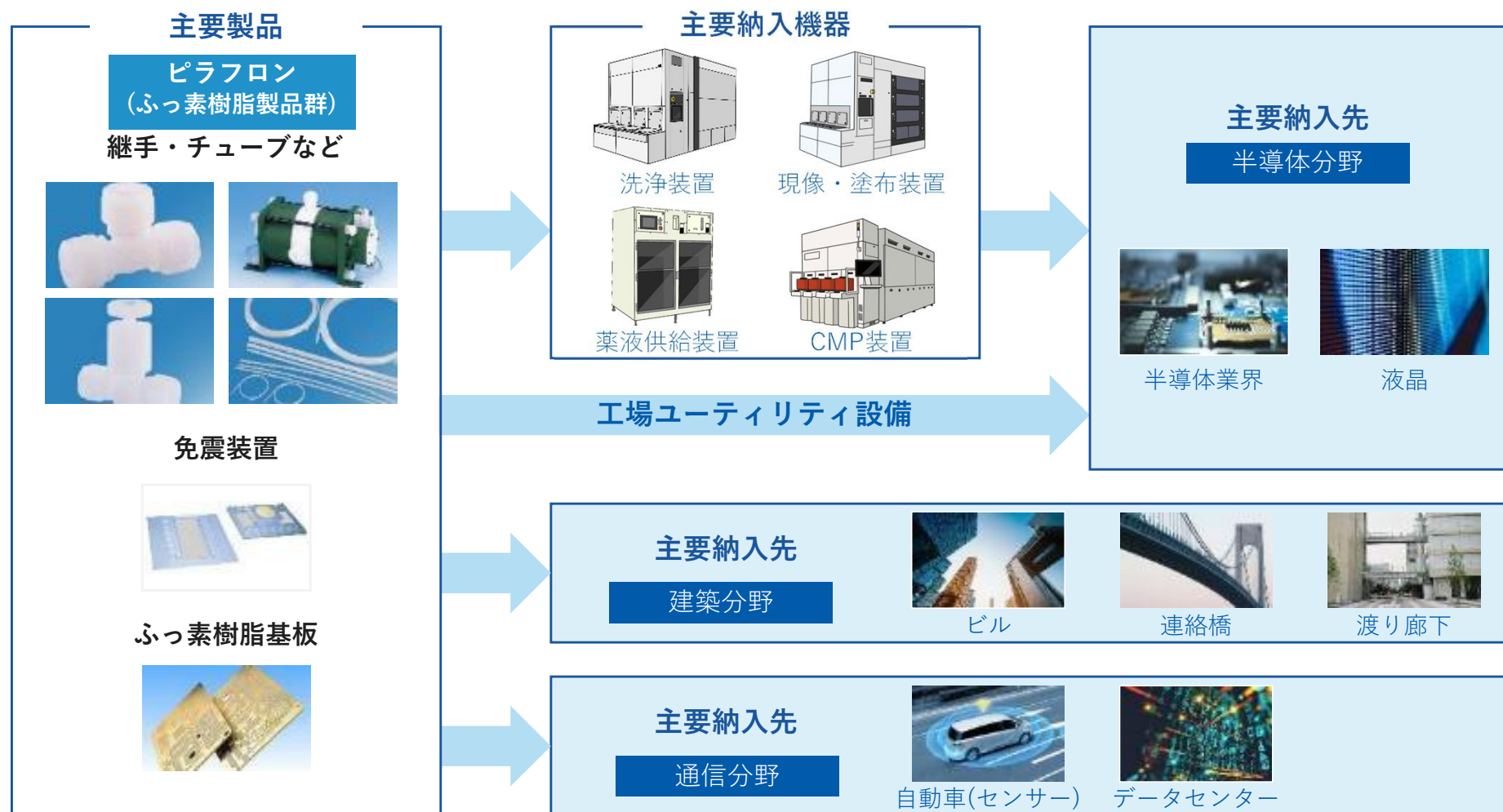
半導体・エネルギー・化学など様々な領域で、
あらゆる流体を制御して、暮らしと環境の安全・安心に貢献しています。



電子機器関連事業 主要な製品と主な納入先

ふっ素樹脂の特性である「クリーン性能」・「耐薬品性」・「耐熱性」・「低摩擦性」を活かした製品群

ふっ素樹脂製の継手・チューブ等は、多様な薬液に影響されないため、半導体の基となるシリコンウエハーの洗浄装置に用いられます。低摩擦性を応用し、建物から地震の揺れを逃がす免震装置に用いられています。



産業機器関連事業 主要な製品と主な納入先

メカニカルシール・グランドパッキン

高温・高圧の過酷な条件で流体の漏れを止める装置で、石油精製・化学プラント・発電所などのポンプやバルブ等で使用されています。

ガスケット

配管と配管の接続部で流体を制御する機能部品であり、自動車の排ガス装置にも使用されています。

主要製品

メカニカルシール：M



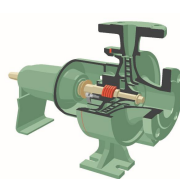
グランドパッキン：G



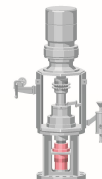
ガスケット：V



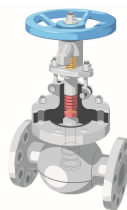
主要納入機器



ポンプ



攪拌機



バルブ



CMP装置

主要納入先



電力
(M/G/V)



化学プラント
(M/G/V)



半導体
(M)



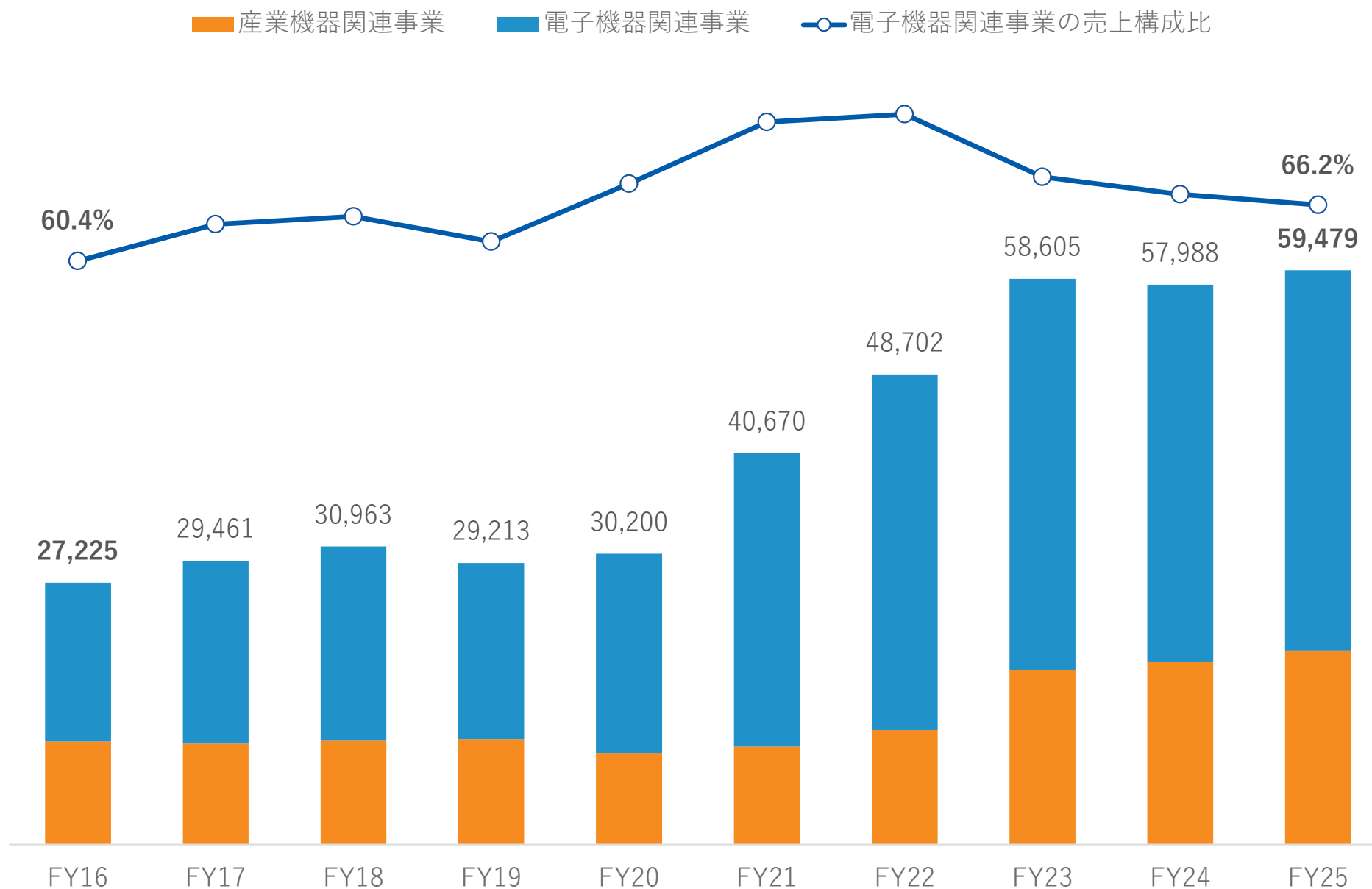
社会インフラ
(M/G/V)



自動車
(V)
(内燃機関、マフラー等)

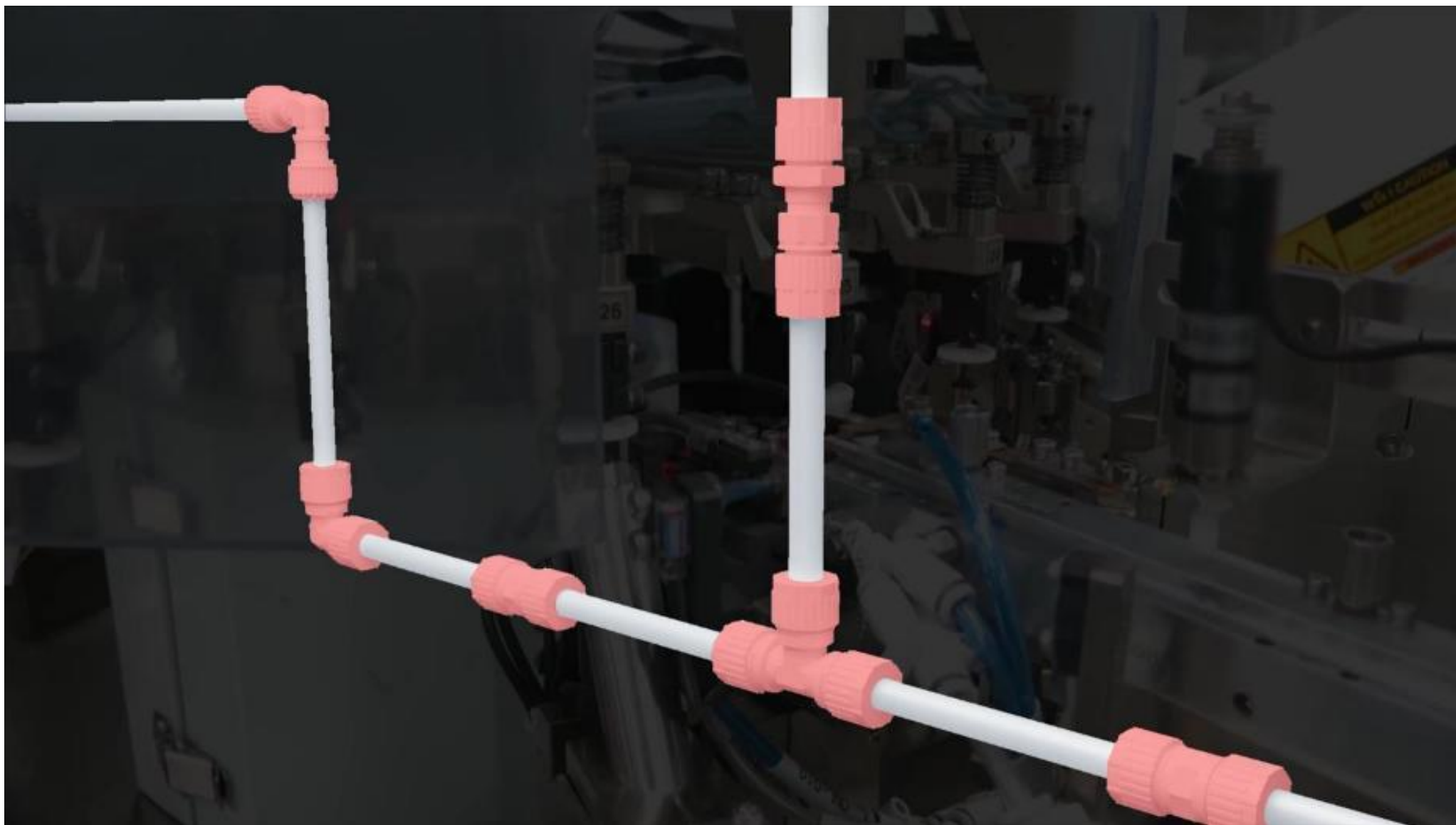
メンテナンス

セグメント別売上・構成比の推移



ピラフロン製品紹介動画

【当社WEBサイト】
動画で見る
PILLAR



動画再生 (4分10秒)

グループネットワーク

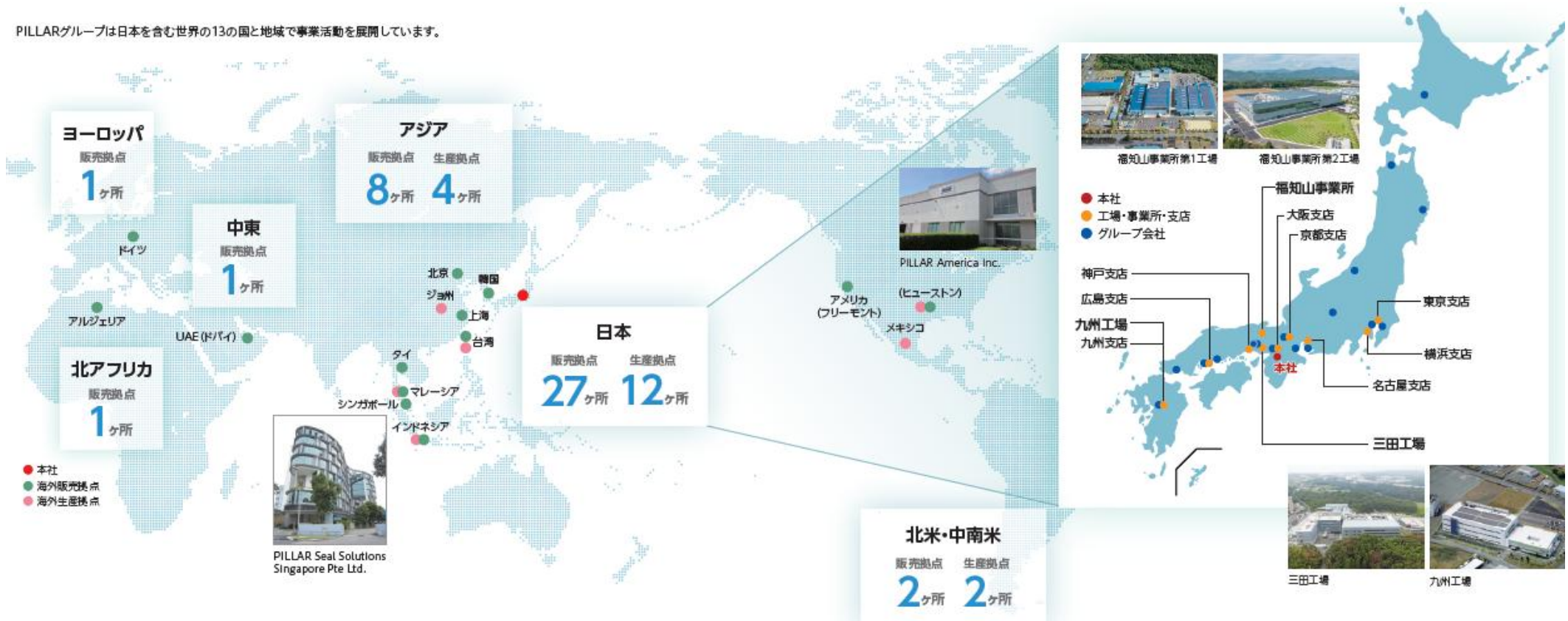
●世界をフィールドに、技術の架け橋となります

当社グループは、1980年に韓国に初の海外拠点を設立したのを皮切りに、グローバル化を推進してきました。現在では、世界の13の国と地域で事業活動を展開しています。

直近の主な動き

- ・ 半導体企業の進出が加速するマレーシア（ペナン）に拠点を新設し、同市場向け供給体制を強化
- ・ 中国・滁州新工場が2026年1月より稼働開始、中国域内での地産地消を推進

PILLARグループは日本を含む世界の13の国と地域で事業活動を展開しています。

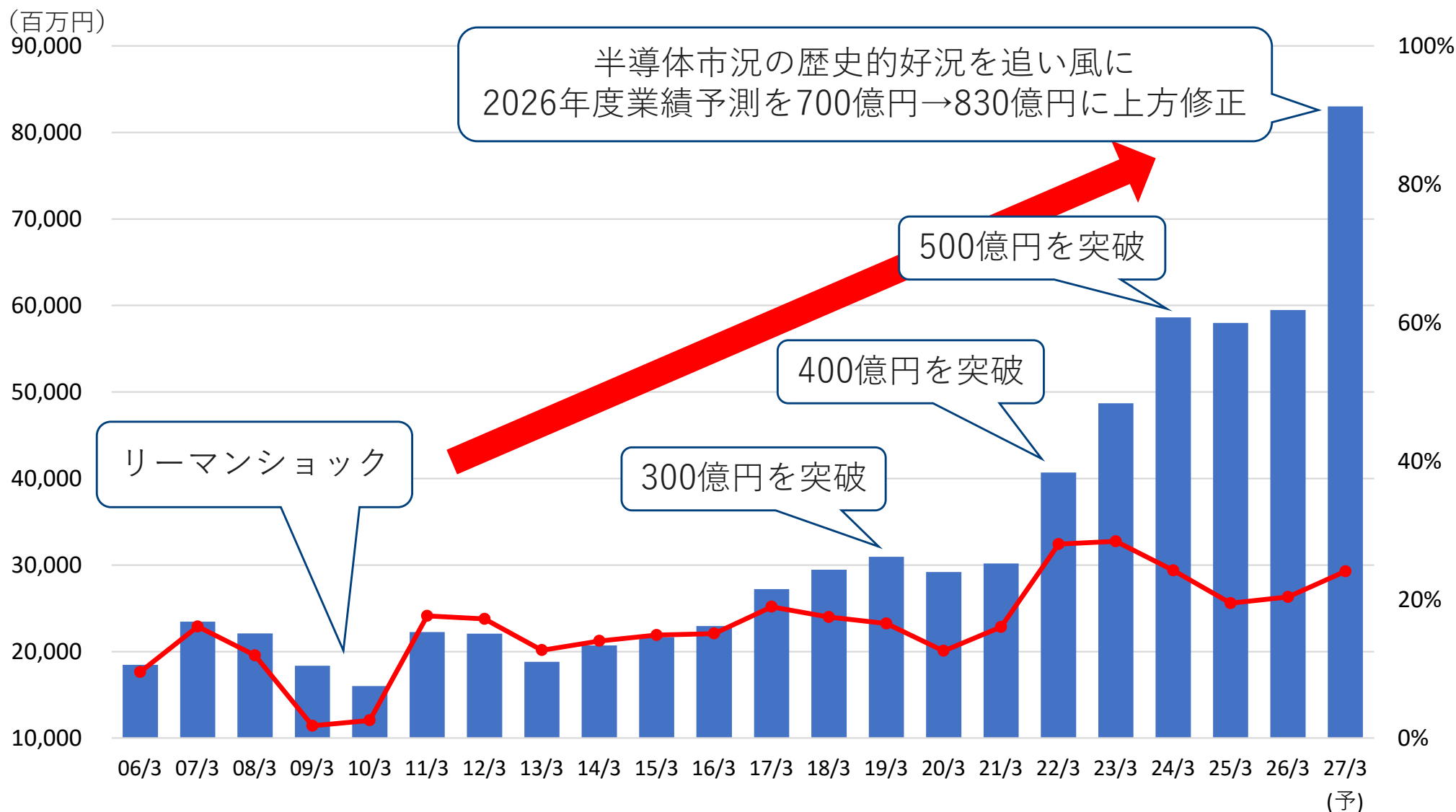


02

業績推移・業績予測・中期経営計画

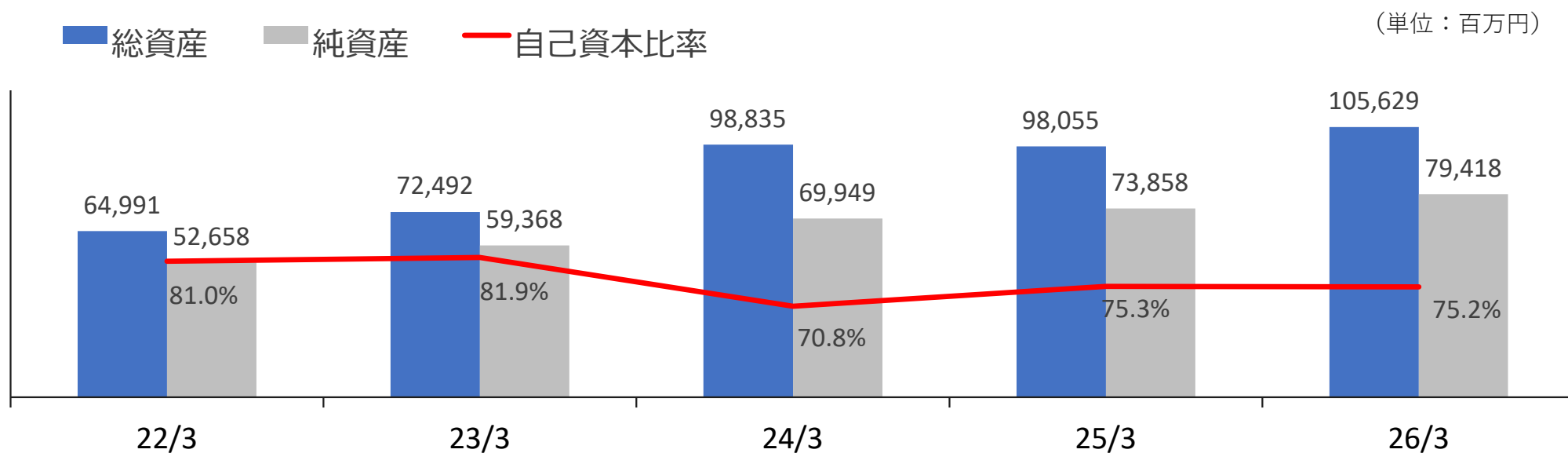
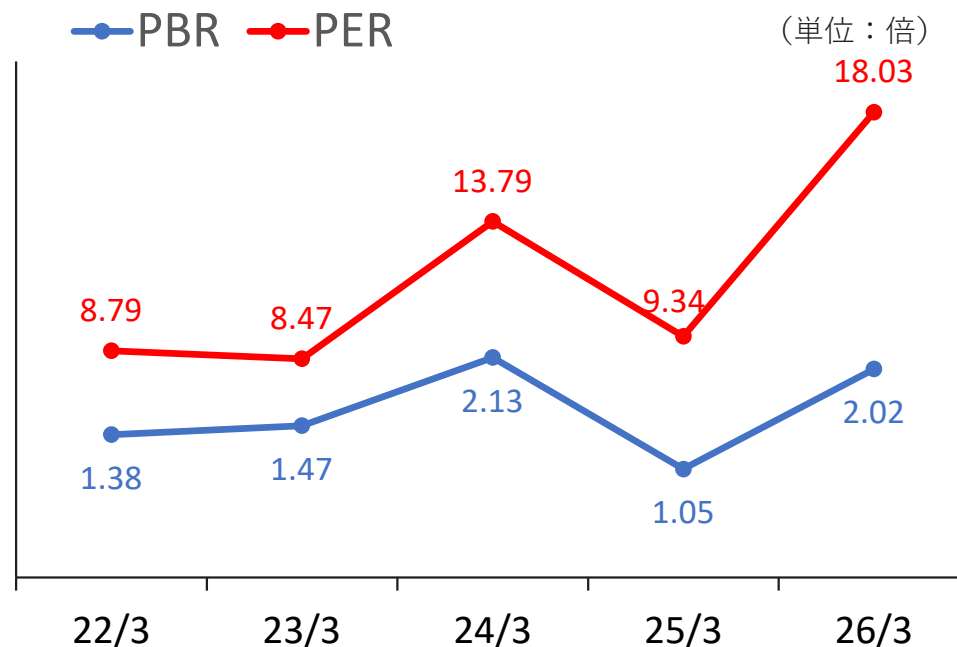
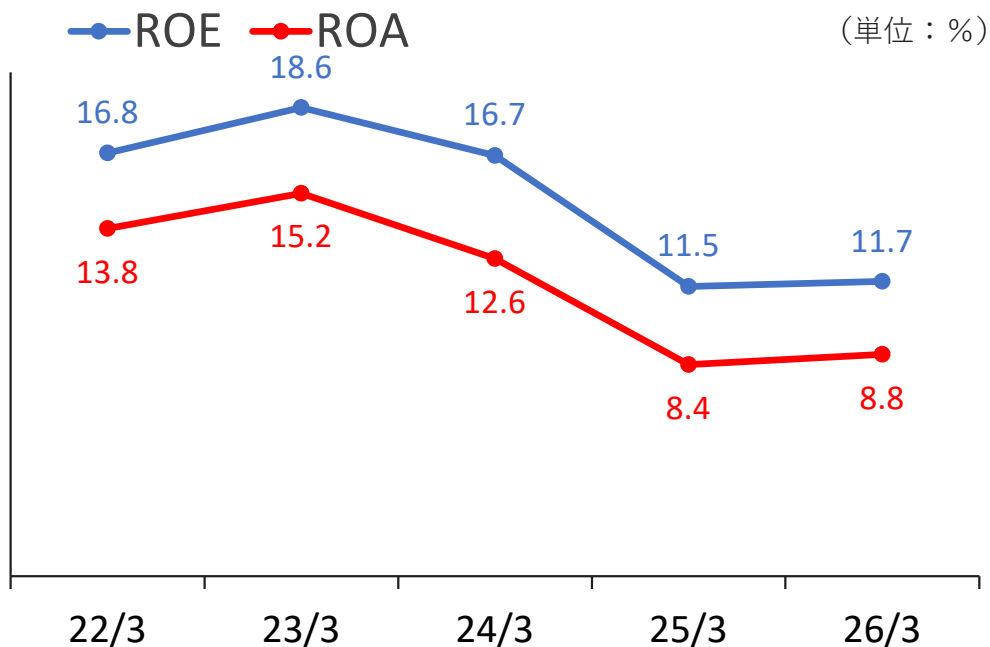
長期業績の推移

■ 売上高 ● 営業利益率



安定した売上成長を実現しながら、高水準の利益率を維持

経営指標/財政状態の推移



新中期経営計画

**ONE
2030**
Day One / Only One / Number One / One Team

(ワン ニーゼロサンゼロ)

更なる
飛躍へ

BTvision22
(2020-2022)

One2025
(2023-2025)

One2030
(2026-2030)

2024年 創業100年

創業100年に
向けて描く、
成長シナリオ

企業価値の
更なる向上

成長の礎となる
経営基盤の構築

更なる飛躍を確かなものにする5年間
CLEAN、SAFETY、FRONTIER を軸に、
グローバル社会から 更に求められる存在へ
そして次の企業ステージへ進んでいく

中期経営計画「One 2030」基本方針

1	半導体市場向け 樹脂事業の更なる飛躍	- 市場成長率（WET工程向け装置）以上の自社成長率が目標 - 商材、サービス、製販ネットワークを拡充
2	産業機器関連事業 ニッチトップの進化	- 半導体市場向け製品のグローバルシェア最大化 - 水素、電池分野での先行実績の積上げ
3	真のグローバル企業へ	- 海外比率50%実現のための海外投資戦略 - 人財の多様性推進とOne Teamの更なる醸成
4	IT/DX技術による 独自の競争優位性確立	- AIやIT技術を用いた業務プロセス改革、生産性向上 - デジタル技術と製品サービスの融合による競争力向上
5	攻めの サステナブル経営	- 社会課題の解決を環境価値、経済価値向上と両立 - 人財、地域への深い関わりと「PILLAR CORE VALUES」実践
6	企業価値向上に繋げる 財務方針	- キャッシュ創出力向上と持続的成長を実現する投資 - 株主還元を経営の重要テーマとして位置づけ、 適切なキャッシュアロケーションのもと機動的に実行

中期経営計画「One2030」事業目標

連結

(単位：百万円)	One2025	One2030			
	2025年度実績	2026年度当初目標	2026年度修正予想	前年比増減率	2030年度目標
売上高	59,479	70,000	83,000	39.5%	100,000
営業利益	12,107	15,500	20,000	65.2%	25,000
営業利益率	20.4%	22.1%	24.1%	+3.7P	25%
ROE	11.7%	-	-	-	15%
配当性向	33.5%	40.0%	40.0%	-	40%
成長投資	(3ヶ年累計) 31,245	10,000	10,000	-	(5ヶ年累計) 90,000

セグメント別

電子機器関連事業

売上高	39,358	48,900	61,900	57.3%	68,500
営業利益	9,064	12,300	16,800	85.3%	18,500

産業機器関連事業

売上高	20,085	21,100	21,100	5.1%	31,500
営業利益	3,021	3,200	3,200	5.9%	6,500

電子機器関連事業

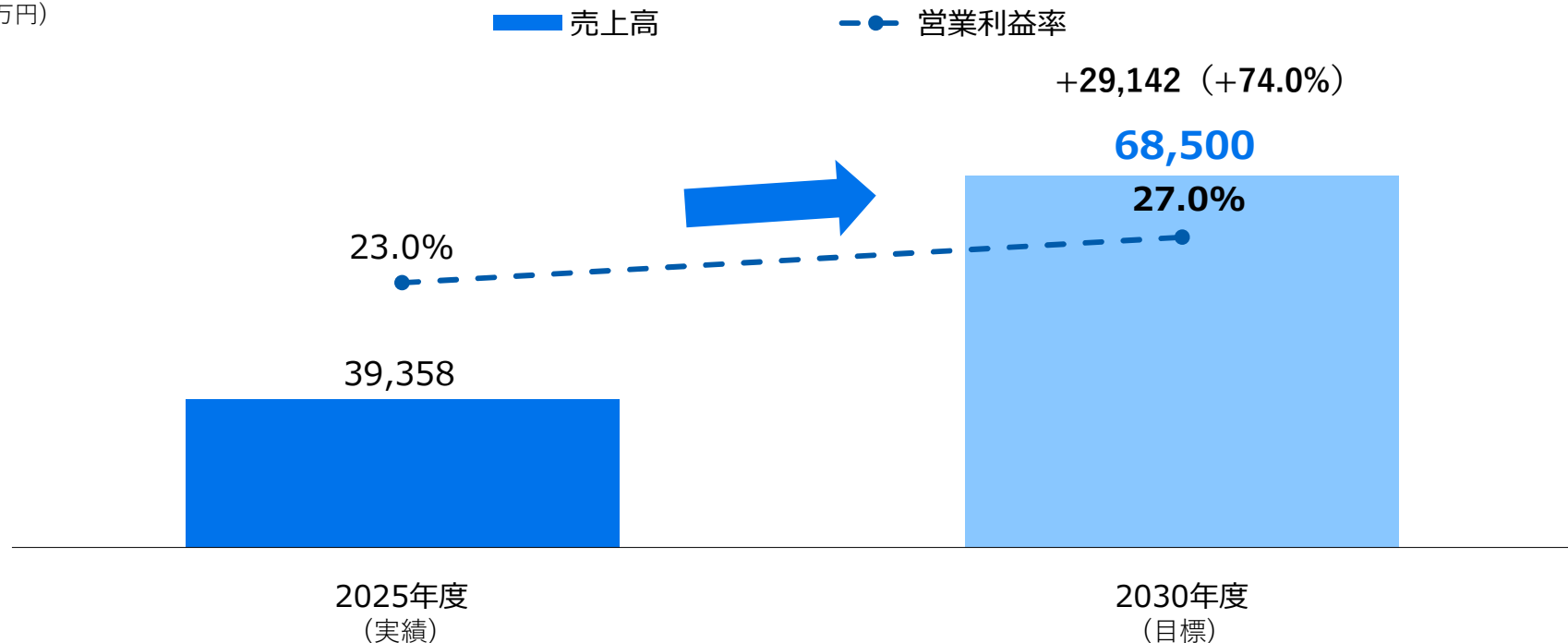
電子機器 関連事業

2030年度にありたき姿

- ・ グローバルの販売網と生産拠点展開を活かし、各エリアで高いプレゼンスを発揮
- ・ 圧倒的品質と供給力により、市場拡大の続く最先端市場での更なるシェアアップ
- ・ 商材、サービスを拡充させ、ラインナップの拡充×市場成長を遂げる
- ・ 確固たる戦略をもって、新技術・新製品でメディカル市場をもうひとつの成長軸へ
- ・ 免震、ふっ素樹脂基板事業を次の成長ステージへ

2030年度 定量目標 (売上・営業利益率)

(単位：百万円)



産業機器関連事業

産業機器 関連事業

2030年度にありたき姿

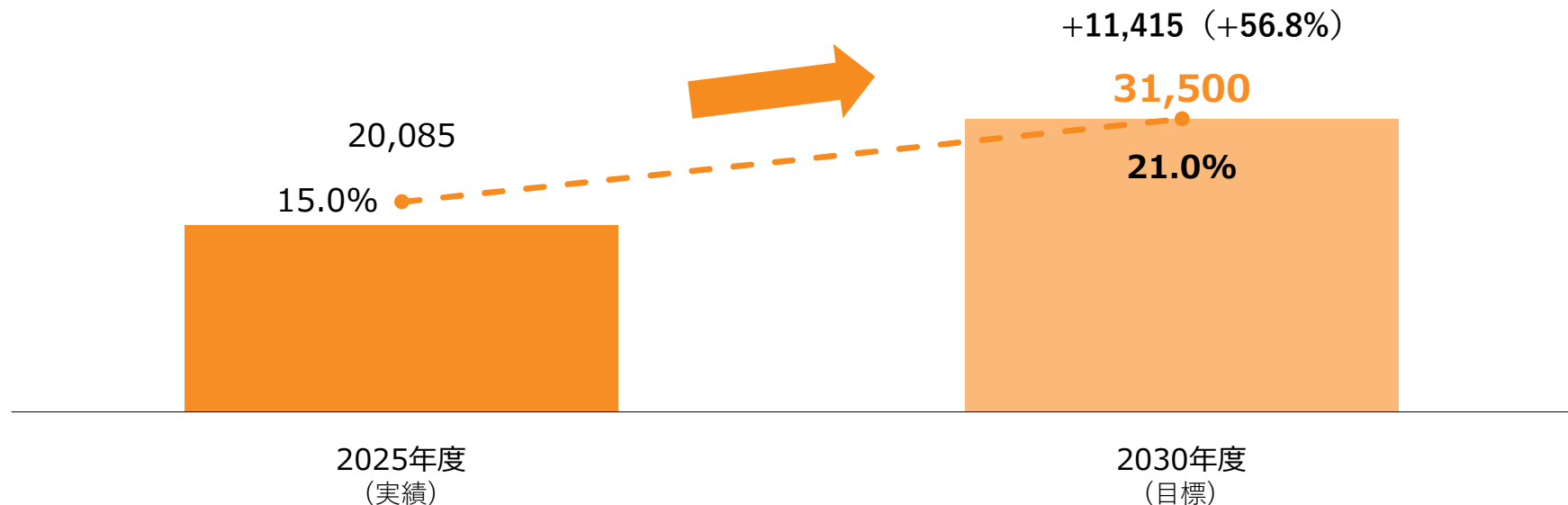
- ・ 産機分野の高付加価値領域における持続的成長
- ・ ニッチ分野でのグローバルプレゼンスの飛躍的向上
- ・ 半導体、水素、電池等の成長領域を新技術、新商材でグローバルに開拓
- ・ 製品とサービス一体の価値提供を実現し、他社と差別化された方策で顧客課題を解決
- ・ 環境性能向上など製品、サービスを通して社会課題を解決

2030年度 定量目標 (売上・営業利益率)

(単位：百万円)

売上高

営業利益率



One2030 財務戦略

キャッシュアロケーション

売上拡大に向け、
設備投資、研究開発、M&A等の成長投資を積極的に行う

One 2025

One 2030

前中計
キャッシュアウト

キャッシュイン

キャッシュアウト

+842億円

成長投資
312億円

株主還元
96億円

営業CF*1
950億円

外部調達
250～300億円

成長投資等

設備投資
500億円

研究開発投資
200億円

M&A投資
200億円

株主還元

配当・
自社株式取得*2
300～350億円

福知山第2工場、
伊那工場、
維持更新投資等

高付加価値製品創出に向け、
R&D比率5%を安定実行

配当性向 40%目標
(配当見合250億円)

*1 営業CFには研究開発費を含まない

*2 自社株式取得は株価水準/財務規律等を踏まえ機動的に実施

* One 2030における記載金額は5年間の累計。One 2025における記載金額は3年間の累計

03

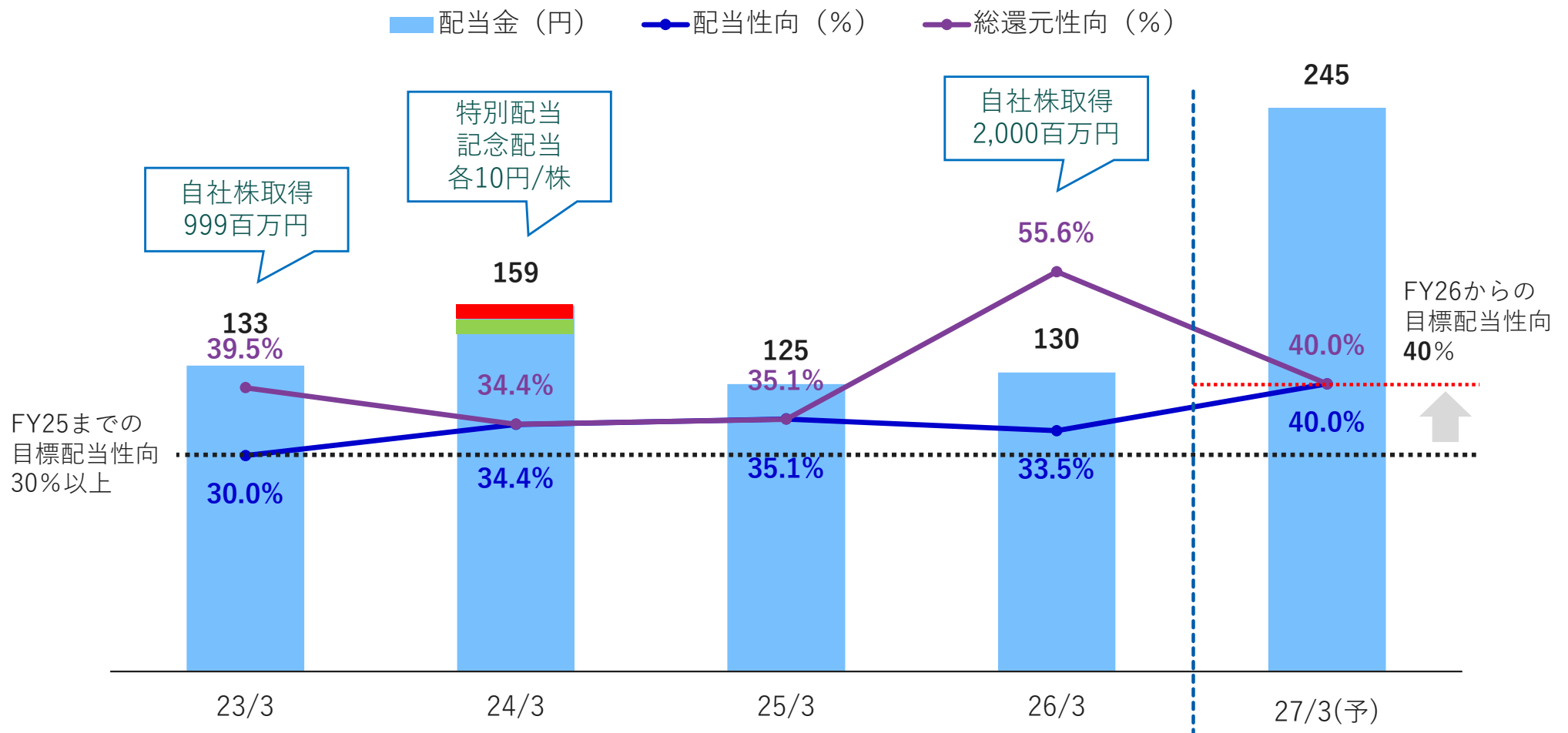
株主還元

株主還元

- 新中期計画「One2030」にて、連結配当性向目標を30%から40%に引き上げ
- 業績予想の上方修正に伴い、年間配当予想を1株当たり188円から245円へ増額
- 前期実績から115円増配し、連結配当性向40.0%を見込む

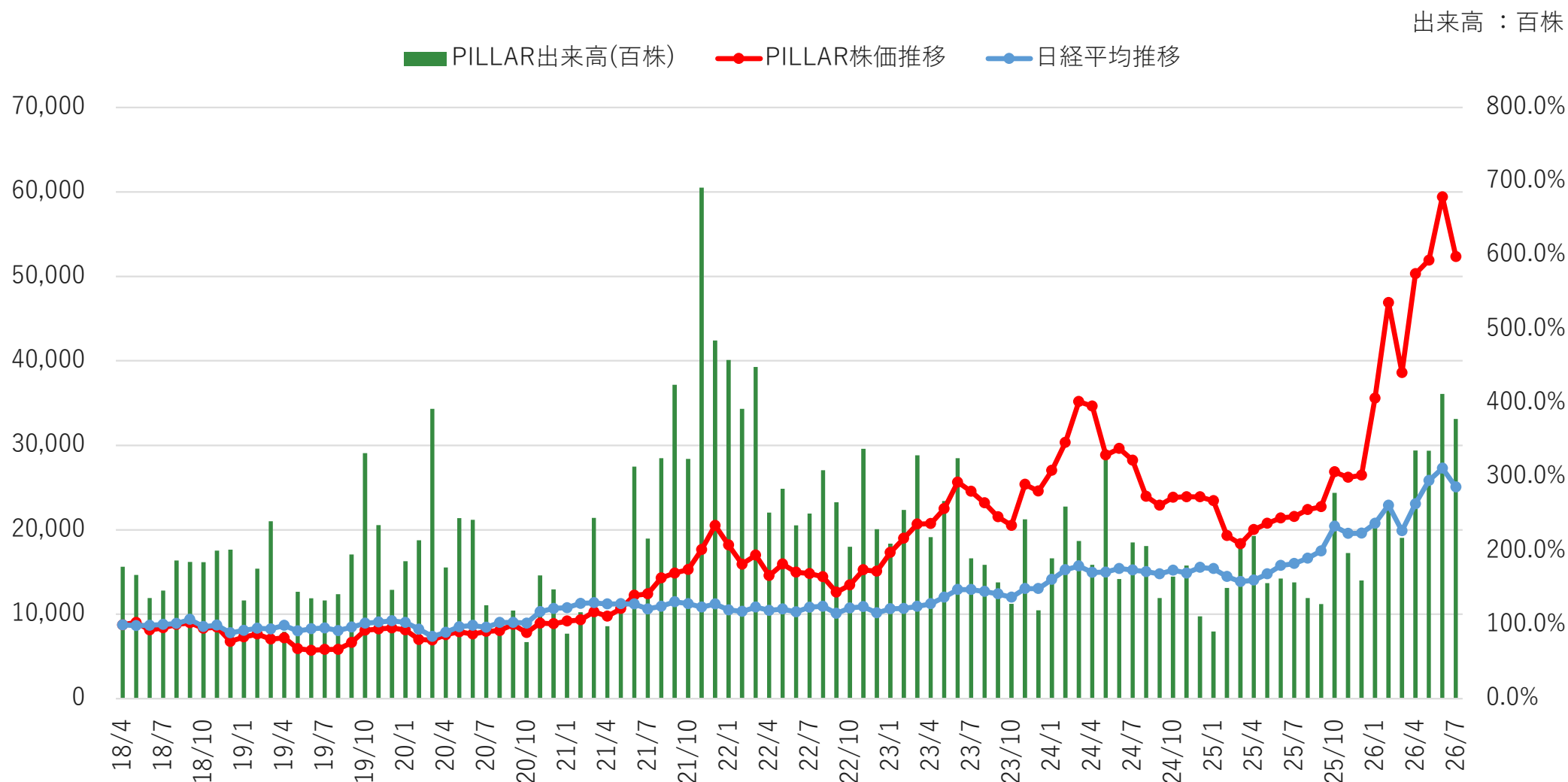
(単位：円)

一株当たり当期純利益・配当金・配当性向



株価ファンチャート

- 2018年4月を起点に2026年7月までの株価の伸び率
- 日経平均株価をアウトパフォーム



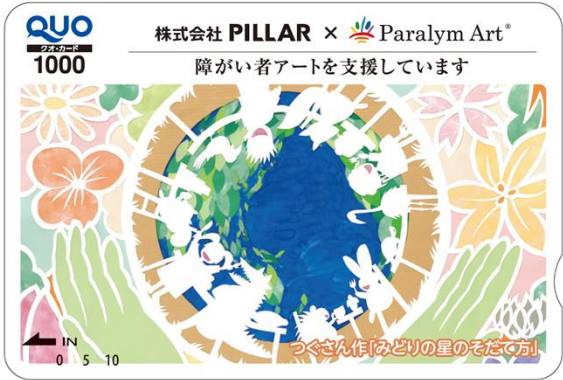
株主優待

【知って得する株主優待】
PILLAR掲載ページ



一定の株式を保有していただいている株主様に感謝するとともに、より多くの株主様に
当社株式を中長期的に保有していただくことを目的として、株主優待制度を導入しております。

オリジナルQUOカード進呈



企業情報サイト「**知って得する株主優待**」にて当社の
優待情報を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

<https://yutai.net-ir.ne.jp/company/6490/>



保有株式数／継続保有期間	3年未満	3年以上
100株～500株未満	1,500円	2,000円
500株～1,000株未満	2,000円	3,000円
1,000株以上	3,000円	4,000円

(注)：保有年数3年以上とは、毎年3月末日及び9月末日現在の株主名簿に同一の株主番号が連続して7回以上記載または記録されていること

お知らせ

【統合報告書2026の発行（2026年8月）】

編集テーマ：2025年版で紹介した「PILLARの稼ぐ力」をベースに
2026年版では新中期経営計画「One2030」を通じた
企業価値向上と資本効率の向上を特集しています。

- 新中期経営計画「**One2030**」を軸に、PILLARの成長戦略を紹介
- 「**稼ぐ力**」と企業価値向上の関係を解説
- 電子機器・産業機器・グローバル戦略の成長シナリオを掲載
- 人的資本戦略**、**新人事制度**、**自然資本**などESGへの取り組みを拡充
- 社員メッセージ**や**取締役**対談を通じてPILLARの価値創造を紹介



<https://www.pillar.co.jp/ja/ir/annual-report/>

【ESG/SDGsの取組み】

E 環境	・ CDP「気候変動」A-評価を獲得
	・ Scope1・2 CO ₂ 排出量の2030年度50%以上削減に向けた取り組みの推進
	・ 環境貢献型製品・省資源型製品の開発を推進
S 社会	・ 新中期経営計画と連動した人的資本KPIの策定
	・ CSR調達やサプライチェーン人権対応を継続強化
	・ 女性管理職比率10%以上を目標化
G ガバナンス	・ コンプライアンス・リスク管理体制の充実
	・ 取締役会実効性評価によるガバナンス強化
	・ IR／SR活動のさらなる強化

本日はありがとうございました

当社WEBサイトのご案内

トップメッセージや中期経営計画、最新のIR資料、株式関連情報などを掲載しております。ぜひご覧ください。



<https://www.pillar.co.jp/ja/ir/>

会社・製品紹介動画のご案内

会社案内および製品紹介動画を当社WEBサイトで公開しております。こちらもぜひご覧ください。



<https://www.pillar.co.jp/ja/about/movie/>

- ・本資料には、将来の業績に関する予想、計画、見通しなどの記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
- ・将来の業績は、主要市場の経済情報、製品需要の変動、為替相場の影響、国内外の各種規制、会計基準・慣行等の変更により、大幅に異なる可能性があることをご留意ください。
- ・本資料は情報の提供を目的として作成したものであり、本資料によって何らかの行動を勧誘するものではありません。

【IRに関するお問い合わせ先】

株式会社PILLAR 経営企画部

<https://www.pillar.co.jp/ja/inquiry/ir/>

